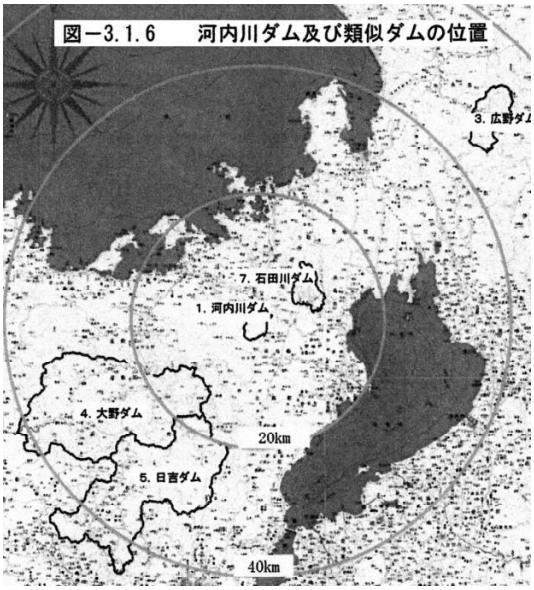
若狭における福井県の「でたらめ行政」を検証する（その25）

河内川（こうちがわ）ダム建設の無駄と無謀 その⑦

民主党政権の **「できるだけダムにたよらない治水」** 政策を
骨抜きにした国交省河川局官僚と福井県河川課の詐欺的手法（**5**）

(小浜市)　松本　浩

民主党政権が「できるだけダムにたよらない治水」の立場からダム検証を要請した際、福井県は河内川ダムの計画堆砂量を検討した。その中で **「石田川ダムは河内川ダムの極近傍に位置し（図－3.1.6）、地質構成はジュラ紀堆積岩類と、河内川ダムと同様である。流域の地形及び気象条件も酷似」している** として、石田川ダムの実績堆砂量を河内川ダムの計画堆砂量（80 万㎥/100 年）の重要な算出根拠の一つとしている。



◆ 2017 年 4 月 25 日、筆者は滋賀県石田川ダム（ロックフィルダム）を訪れた。

国道 303 号線を挟んで、福井県河内川ダムとは直線距離にして 6 キロメートルほどの石田川ダムへは、熊川宿を出発してから 10 分ほどで到着した。

一見して、ダムは寂れた日陰の存在という雰囲気を醸(かも)し出していた。

何よりも先ず、ダムに当然あるべき水がまったく溜まっていない。遠く露出したダ

田んぼに水が必要な時期にもかかわらず全く水が溜まっていない石田川ダムの全景
左の建物はダム事務所、右側の擁壁中ほどから湖底まで斜面が崩れ落ちている。　（2017. 4. 25 撮影：東山幸弘）

ム底に、かつての田ん圃の畦がしらじらと日に晒されている。

堤体上部の一画に土盛りして建てられ、訪れた観光客が湖面を眺めて憩うはずの二棟の展望デッキは、ベンチも屋根も黒ずんで廃墟のように寒々と立っている。

堤体東詰から湖周を北へ伸びる道路は、数十㍍ばかりの所でコンクリート擁壁もろともダム底へ無残に崩れ落ちている。崩れた斜面は垂直に近く、補修が困難と見えて工事は中断、というより途中で放棄されて久しいように見える。

ダム事務所横から湖周を北へ伸びる道路は、入口に車止めが置かれており徒歩で少しのぼると、崖崩れが放置されて大きな岩が散乱し路面は水浸しであった。

ダム事務所のブザーを押すと、職員が二階から降りて来られたので、ダムのパンフレットを請うと「今はもう印刷していませんので」と言って、『石田川ダム』という小さなパンフレットのコピーとダムカードを持って来て下さった。

パンフレットの表紙は、満々と水を湛えたダムの洪水吐から白く泡立った湖水が勢いよく流れ落ちる 1970 年 3 月の石田川ダムの勇姿で飾られている。

パンフの事業概要によれば、石田川ダムは「洪水による災害の発生を防ぐとともに、下流域への既得用水の安定供給を図ることを目的として、昭和 37 年に石田川総合開発事業が発足した。昭和 38 年度に建設に着手し、昭和 40 年度にダム本体の工事に着手。昭和 45 年 3 月に全ての工事が完成した」（総事業費は 9 億 3000 万円）。

諸元は下記のとおりである。

（括弧内）は河内川ダムの諸元。

・形　式　中央遮水壁型ロックフィルダム
　　（重力式コンクリートダム）
・堤　高　　43.5m　　（77.5m）
・堤頂長　　140.1m　　（202.3m）

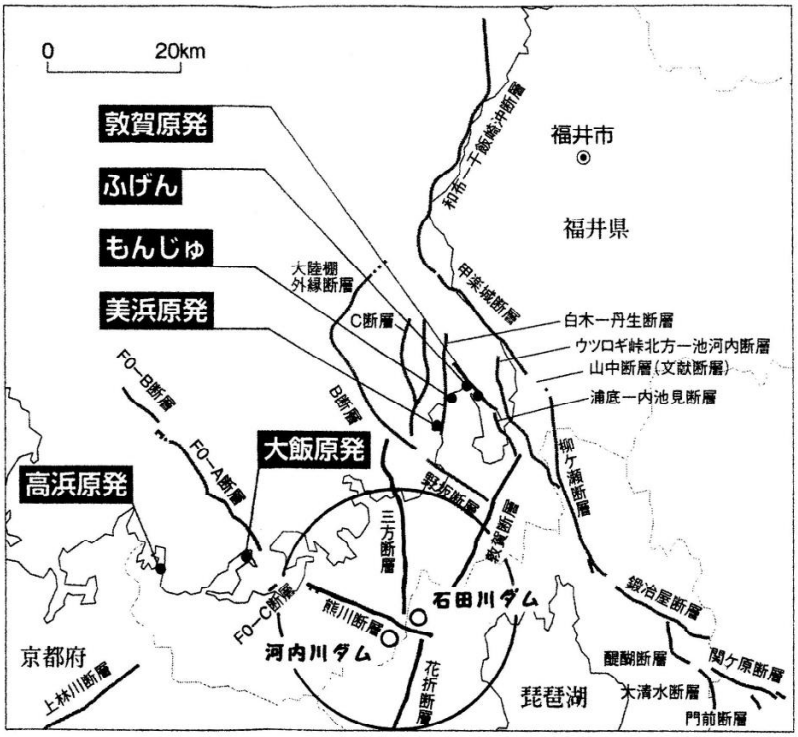
石田川ダムのパンフレット表紙（カラーコピー）

・堤体積　　268,000 ㎥（258,000 ㎥）
・流域面積　　23.4k ㎡（14.5k ㎡）
・湛水面積　　0.16k ㎡（0.37k ㎡）
・総貯水容量　　2,710,000 ㎥（8,000,000 ㎥）
・有効貯水容量 2,310,000 ㎥（7,200,000 ㎥）
・洪水調節容量 1,870,000 ㎥（2,400,000 ㎥）
・利水容量　　1,800,000 ㎥（4,800,000 ㎥）
・堆砂容量　　400,000 ㎥（　800,000 ㎥）
・サーチャージ水位 EL 302.50m（197.7m）
・常時満水位　　EL 299.20m（190.5m）

なお、放流はゲート調節（第 1 取水口 294.7m ～ 第 5 取水口 274.7m）であり「穴あきダム」ではない。現在、水の汚濁を避けるために石田川の流れをダム底の脇に特設した導水路に通して、第 5 取水口下から放流している。

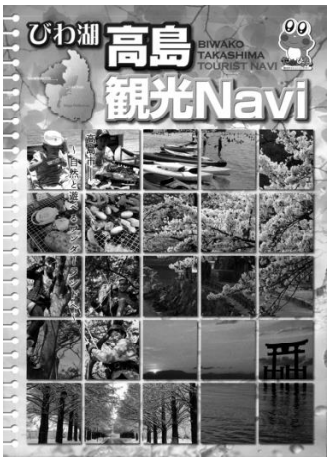
地震のたびに水漏れが激しくなり、今では、大雨や雪解けのほかは水が溜まらないが、ダム底や山腹の水漏れ箇所の調査などは実施していない。

河内川ダムと石田川ダムは、西方向へは熊川断層が伸びて大飯原発の FO-A ～ FO-B 断層に連なり、北方へは三方断層が伸び、南方へは花折断層が伸びる扇の要(かなめ)、最もダムにはふさわしくない地理的条件に位置している（右図参照)。



石田川ダム下流域、角川集落の外れとダム直下の上り口の 2 か所に緊急放流警報装置が設置され、警告の看板が物々しく立てられていたが、水の溜まらない空ダムとの対象が滑稽でもあり、物悲しくも思われた(写真↓)。

道路のガードレールが荒廃したままであったのと相侯って、石田川ダムは滋賀県の迷惑施設になっているのではないかとの印象が残った。



なお、高島市今津支所に寄って **『びわ湖 高島 観光Navi』 高島市 ～ 自然と遊べるワンダーランドへ ～** というきれいな宣伝物を頂いたが、そのどこにも石田川ダムの紹介はなく、国道からダムに至る

河内川ダムの「極近傍」にあって 47 年前に完成した**石田川ダムが、断層破砕帯に建設されて水の溜まらないダム**になっていることを確認した一日であった。

（次号に続く）